

本定例会に提案いたしておりました議案につきましては、慎重にご審議いただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。

### 【追加議案について】

さて、本日、追加提案いたします議案は、報告1件、決算認定6件でございます。それでは、提案理由の要旨について申し上げます。

まず、**報告第5号** 平成26年度鹿島市一般会計継続費精算報告書について申し上げます。これは、継続費に係る東部中学校改築事業が平成26年度で終了いたしましたので、地方自治法施行令第145条第2項の規定により継続費精算報告書として報告をいたすものでございます。

**議案第50号** から **議案第55号** に関しましては、平成26年度の一般会計及び特別会計に関する歳入歳出決算となります。

平成26年度におきましては、事務事業の見直しによる事業の厳選、後年度の財政負担の軽減を図るため、限られた財源から基金への積み立てを行うなど、効率的で健全な財政運営に留意しながら、必要な事業に積極的に取り組んでまいりました。

その結果、各会計別の決算状況は、国保会計が歳入不足となったものの、一般会計をはじめ、それ以外の各会計は昨年に引き続き黒字決算となり、おむね順調に各種事業を推進いたしました。

それでは、はじめに、**議案第50号** 平成26年度鹿島市一般会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

平成26年度の歳入につきましては、総額150億7,089万4千円となり、国庫支出金や市債、繰入金などの増により、対前年比11.5%の増となりました。

一方、歳出につきましては、総額147億2,202万1千円となり、扶助費や投資的経費などの増により、対前年比12.9%の増となりました。その結果、繰り越すべき財源を差し引き、3億278万円の黒字決算となりました。

職員採用の抑制、各種事務事業の見直しなどにより歳出面の削減効果は着実に表れておりますが、地方交付税などの主要な歳入一般財源が伸び悩み、これが投資単独事業などの政策経費を圧迫する決算状況となっております。

このように厳しい財政状況の中、財源不足補填のため、一旦は、市の積立金である財政調整基金から4億1,100万円、公共施設建設基金から4億4,196万8千円の繰り入れをいたしました。年度末までに、それぞれ、2億5,208万2千円と3,918万8千円の積み立てを行い、今年度以降の財政運営に備えることといたしました。

次に、平成26年度一般会計決算における主な財政指標につきまして、説明をいたします。

財政構造の弾力性を判断する指標としての「経常収支比率」は、93.2%で前年度と比較して1.0ポイントの増となりました。

主な要因としましては、各種交付金は増加したものの、普通交付税の減少により、主要一般財源が減少したことに加え、扶助費や物件費などの経常経費が増加したことによるものでございます。

経常収支比率は、税収と普通交付税の動向に大きく左右され先行きが不透明ではございますが、経常経費の徹底した見直しを行うことにより、改善に努めてまいります。

公共下水道などの公営企業や一部事務組合の公債費も含めた「実質公債費比率」につきましては、9.0%となり、0.9ポイントの改善となりました。

た。この結果、平成21年度から継続して18%を下回っており、市債の発行に際し知事の許可が不要な協議団体を維持しております。

さらには、市債現在高や上下水道などの公営企業や一部事務組合などの元利償還金に充てる一般会計からの繰入見込額、全職員の退職手当支給予定額など、一般会計が将来負担すべき実質的な負債の比率を示す「将来負担比率」は、58.0%となり、早期健全化基準の350%を大きく下回る良好な結果となりました。

今後とも、それぞれの指標の改善に向けて更なる努力を行ってまいり所存でございます。

これまで、総合経済対策や都市基盤整備に積極的に取り組んだ結果、その財源とした市債残高は、今年度末には106億400万円となる見込みであり、償還費を普通交付税で全額措置されます臨時財政対策債を除けば、実質60億円の市債残高になる見込でございます。

さらに、市債残高全体に対する償還費の普通交付税による措置率は、平成26年度決算では74.7%となっており、市の自主財源で返済する金額は、実質的には27億円程度と見込んでおります。

鹿島市の行財政運営の主要な部分を占める一般会計においては、今後とも改革の手を緩めず、更なる行財政改革や市税などの自主財源の確保に取り組んで財政基盤を強化し、新たな政策的経費の財源を確保していくことが大きな課題であると認識いたしております。

次に、議案第51号 から 議案第55号 までは、それぞれの特別会計の決算認定でございます。

これらにつきましては、各特別会計の設置目的に従いまして事業の推進を図ってきたところでございます。

まず、**議案第51号** 平成26年度鹿島市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

平成26年度の歳入の総額は、10億2,606万円、歳出の総額は、10億2,441万6千円で、差引き164万4千円となり、平成27年度への繰越明許事業分の財源として使用することといたしております。

次に、**議案第52号** 平成26年度鹿島市谷田工場団地造成・分譲事業特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

平成26年度の歳入の総額は、245万円、歳出の総額は、23万8千円で、差引き221万2千円の黒字決算となっております。

次に、**議案第53号** 平成26年度鹿島市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

平成26年度の歳入の総額は、39億6,672万2千円、歳出の総額は、40億1,930万9千円で、差引き5,258万7千円の不足が生じたため、平成27年度会計からの繰上充用金により補填したところでございます。

次に、**議案第54号** 平成26年度鹿島市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

平成26年度の歳入の総額は、3億7,785万3千円、歳出の総額は、3億7,650万3千円で、差引き135万円となり、平成27年度会計へ繰り越したところでございます。

最後に、**議案第55号** 平成26年度鹿島市給与管理特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

この会計は、職員給与支給事務の簡素化を図ることを目的とした会計でございまして、水道事業を除く一般会計及び特別会計のそれぞれの給与費決算額と重複した決算となっております。

以上、追加提案いたしました議案の説明を終わりますが、本市は、ますます厳しさを増す財政状況の中、「第二次鹿島市行財政改革大綱」を着実に実行し、収支のバランス、ハード事業とソフト事業のバランスをとりながら、今後とも市民生活に直結する福祉、環境、教育、文化、産業振興、都市基盤整備などの事業推進や「第五次鹿島市総合計画」に基づく主要施策の展開のため、必要な財源確保に努めてまいり所存でございます。

なお、各会計の決算の詳細につきましては、『歳入歳出決算書』及び『主要施策の成果説明書』を参照していただくとともに、ご審議の際は、担当部長または課長が説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。